

令和2年度第2回大分県総合教育会議 議事要旨

【日程】

日時 令和2年10月26日（月）

開会10時30分 閉会11時50分

場所 県庁本館4階 第一応接室

【出席者】

総合教育会議構成員 大分県知事 広瀬勝貞

大分県教育長 工藤利明

大分県教育委員 林浩昭

大分県教育委員 岩崎哲朗

大分県教育委員 高橋幹雄

大分県教育委員 鈴木恵

大分県教育委員 岩武茂代

【協議事項】

(1) 文化財の保存、活用について

(2) 先端技術に関する教育について

【議事要旨】

(1) 文化財の保存、活用について

○文化課長 (資料に沿って説明)

○広瀬知事 国東の神仏習合など方々に文化財があります。道路の脇にお地蔵さんがあって、決して放置されている訳ではないけれども、本当に守られているのだろうか心配になるが、よく守られていると思います。あれはまさに、信仰が生きているから皆さんもおろそかにせず、むしろ大事に扱っているという気がします。ああいった形でいつまでも守られればいいが、文化財の承継についてはいろいろな課題があろうかと思っています。是非意見を賜りたいと思います。

○高橋委員 元々大分は分國小藩で、いろんな藩があっっている地域文化が根付いてきた県だと思います。ましてや八幡様の総本山が大分にあるくらいの六郷満山の神仏習合が重要な役割を果たしてします。ただ、地域の子どもたちが、地元のお宮の歴史すら知らないといった状況もあって、まずそういったものを子どもたちに教育するということが必要じゃないかと私は思います。

また、文化の継承については、人口減少とかいろいろな問題がありますが、信仰が途絶えていないから、寺社仏閣とか日本の文化はたくさん残っています。そして以前からグローバル人材の話もしてきましたが、自分の地域が自慢できないと世界に出たときに、地元にはこんな街や神社、歴史があると言えるように、まず地域のことから学ばないといけない。宇佐神宮や六郷満山の仏教文化がなぜ大分に根付いたのかとか。それはやはり豊後という国だけあって、豊かだった。遠賀流域から宇佐ぐらまで米文化発祥の地として、食文化がすごく結び付いたと思うので、そういうところを最初に子どもたちに、きちっと地元の文化として教える必要があると思います。

○林委員 私は国東の真ん中に住んでおり、地元の天神様という祠の総代をしています。人口が減ってきたなかで、子どもたちまで含めて信仰を守っていくのは、今非常に厳しい状態にあります。でもなんとか頑張っていこうとしていて、だからこそ各地でいろいろなものが守られているのではないかと思います。そういったことを伝えていくことが大事ですし、例えば国東であれば、1970年代に岡本太郎氏が来まして、国東の石仏文化に対する書物や文章を残しています。いろいろなものを発見してくれているのですが、そのことすら忘れていくことがあります。それらをもっともっと活用していくよう、私も頑張っていきたいと思っています。

○広瀬知事 国東では「おせったい」ってあるじゃないですか。子どもたちはその度に駄菓子をもらって、信仰は無いけども仏様、大仏を守っていくということを学んでいく訳です。そうすると文化財の保護にも非常に役立つんじゃないかと。だから子どもの頃から教えておくことは非常に大事です。咸宜園の淡窓も日田の小学校は教えていますから。

○高橋委員 今チャンスだと思うのが、私は知らなかったのですが「鬼滅の刃」という漫画が鬼文化に少し関わっています。そういったものを地域の人がうまく利用して、子どもに興味を持たせることをしたら面白いんじゃないかと思います。

一番のキーパーソンは地域ですね。地域がしっかりと継承していかないと。例えば、今祭りに人が集まらないからといって土日に行ったりするんですよ。本来の神事は日にちが決まってるんですが。だから、集客という経済活動と併せて文化の継承を行っていくというのが重要なポイントではないかと思います。

○広瀬知事 事務局に聞きますが、お寺や神社を管理する者がいなくなった場合、そこにある貴

重な文化財はどうなりますか。勝手に売ったりできる訳じゃないですよ。

○文化課長 指定された文化財については、県や市、国でしっかり守っていきます。檀家等、引き継ぐ者がいれば文化的な施設で保存できるものは保存し、また地域で守っていただきます。ただ地域でそういった団体がなかなかできないので、その時は市町村が保存団体になって、それを守るという仕組みを作りつつあります。

○広瀬知事 指定していなければ勝手にできるんですか。

○文化課長 指定していないとなかなか保護が図れないので難しいところもあります。指定されていない文化財にも目を向けていこうということで大綱の中で謳って、地域の人たちに文化財を知ってもらい、そして発見してもらいということをして市町村と一緒にやっていこうと考えています。

○工藤教育長 有形無形の文化財があるんですけども、有形のものはメリットがありますし、形があるから手を付けやすい。無形のもの、人が活動の中で守るものであり、こういうものの継承は非常に難しい。人が少なくなってくると有形のものも守れなくなります。

今県内には約3,200件の有形無形文化財があり、国指定が約180件、県が約750件、市町村が約2,300件。その他にまだ指定もされていないものがあるが、徐々に消えていっています。どうしたら、そこまで目が行き届くような仕組みができるかということは、大きな課題です。そこをうまくやっていくためには、大綱を決めさらに市町村が計画を作り、全体を見たいうえでどう継承していくかという視点で整理する必要があります。

子どもたちにしっかりと意識させていくということで、「鬼が仏になった里」という絵本を作り、子どもたちに馴染みやすいものを提供しています。

日田には日本遺産の「子どもガイド」という仕組みも作られています。

○広瀬知事 聞かせてもらって感激しました。

○林委員 杵築市にもあります。

○工藤教育長 白杵では検定を行って「白杵っこガイド」という取組をやっています。

国宝級、国指定や県指定になるとそれなりにみんな関心も持ってくれるし、手が届くんですけれど、市町村も指定まで持っていくのが難しい状況です。知事部局、市長部局でも文化財行政をやってみよう、主管部局を動かしてもいいというような動きもあります。我々の県もそうなんですけど、そのためには学芸員とかをしっかりと確保しながら目が行き届くようにしていくことが大事だと思います。計画的に採用しています。

○広瀬知事 なかなか大変ですね。

○工藤教育長 裾野が非常に広い生活の中に生きているものが、時間とともに文化財的な要素になったりとか、先の議会でも戦争遺跡の質問がありましたが、これも継承していくには意識に上らせないと難しいです。

○広瀬知事 特に無形文化財については、映像に残しておくというのは大事ですね。そういうのは何か取り組んでいますか。

○工藤教育長 方々やっています。人が少なくて上手いかなくなった時に、応援してくれるようなものを。立石楽というのは、一度滅びたものを、知識のある人が教えてくれる形で継承しています。

○広瀬知事 すみつけ祭りも振興局の人が随分応援してくれました。

○工藤教育長 暮らしとともにあるようなものについては、どうやって活用しながら繋げていくかということと、それ自体豊かなものだという価値観をみんなが持つようになると変わってくると思います。

○広瀬知事 小藩分立でやってきたから、お上の権力で守ってきた訳じゃない。民間主導でやってきたから、案外土壌としてはいいと思うんですけどね、守りやすくて。

○高橋委員 逆に言うと小藩分立が大分県の宝になっているんじゃないかと思います。なぜかという、その藩その藩独自の学問とかが発達して行って、文化もその地域でずっと残してくれたので、今の県大分県の文化芸術活動というのがあると思います。

私も今、昔のひやきやじり焼きというものを研究して復元しようとしています。そういうものも含めて、食文化と生活文化が結び付いていっていると思います。

○岩崎委員 本当に皆さん方頑張っているんですけども、基本的に地域の方々が歴史的なもの或いは自分たちの文化的な遺産をどう活かすか、それに対してどうサポートして支えていけるかが大きいと思います。人口減少で確かに支える人が少なくなっていますが、逆にそういういったものに目が行けば、これを活かすことによって、地域の活性化に繋がるんだという観点から、地域の方々がそれに取り組んでいくようになると思っています。そういう意味では文化財の掘り起こしや、どう活用するかというのは非常に大きいです。

中を見てもらうと分かるんですが、臼杵市が子どもたち向けにとっても素晴らしい資料を作られています。臼杵にどういうものがあって、どんな歴史があったのかを知ることができるんですけども、一方で我々が臼杵に観光に行く時にこの資料に載っているものが見られるか

というと、なかなか見られずもったいないと感じています。もっと地域に目を向けたいという人に対するアピールの資料をせっかく作っているのだから、もっと観光や地域おこしに活かしてほしい。

○鈴木委員 愛知県から引っ越してきて、これだけお祭りや伝統芸能文化が残っているのに非常に驚きました。お祭りや伝統的なものはどんどん縮小して、どちらかというところでは排除しているのが全国的な流れだと思います。私の住んでいる所でも、獅子舞をなんとか残そうということで、例えば獅子頭が傷んだらお金を出していただくとか、地域の方々が熱心に活動されています。御嶽流神楽もそうですけど、魅力ある神楽であれば清川町在住者でなくても受け入れるなど、人材確保に力を入れ非常に活発に活動されています。私はそもそも神楽が残っていることに非常に驚きましたし、それこそ「鬼滅の刃」で神楽を舞うシーンがあるのですが、そういった世界のものが身近で見られるというのは非常にすばらしい。子どもたちも小さい頃からお祭りの文化に触れて造詣が深いし、小学校でもその地域の文化や伝統を学んだり、地域で培われた石橋の技術などを学んでいます。子どもたちがそれを大事にしようと思って、後々の進路だったり将来その町を守るんだっていう形にもっていければ、それが文化や伝統を守ることになります。

人口減少が激しく地域に子どもがいなくなっているので、祭りの継承も非常に厳しい状態になっています。今年はコロナで祭りがなくなり、練習もできず子どもたちも寂しく思っています。そういう地域ごとでやっていたものを、もう少し県全体でPRする場があってもいいんじゃないかと思います。地域で受け継がれたものを、その地域だけのものにせず全国や世界に発信するぐらい魅力的なものが沢山あります。全てのことに言えるが、大分の皆さんは、いいものが当たり前のものと思って外に出さないで、もっと発信してもいいと思います。

○広瀬知事 祭りって地域の元気の源っていうところがありますよね。だからそこを大事にしてもらわないといけないと思います。

○岩崎委員 今年のコロナで祭りが皆中止になり芸能関係の方々も失望しています。

○広瀬知事 歴史や文化、先程の御嶽流神楽など、そういったものを学校で教えているのは非常にいいことだと思います。学校ではどの教科の先生が教えているんですか。

○工藤教育長 総合的な学習の時間で故郷の歴史を学んだり、社会見学的なものなどいろんな形でやっています。最近はその部分が盛んになってきているので、意識付けは随分できていると思います。

○広瀬知事 産業教育フェアでの神楽は見事でした。

○岩武委員 教育長からも話があったように、特に無形文化の保存と活用を考えたときに、学校教育の中で教えるというのは非常に大きなことで、大変意義があると思います。

今地域が高齢化して伝承が難しい中、学校教育の中で伝統的な盆踊りや神楽の部活、地域の行事に取り組むことはとてもいい案だと思います。できたらそこにPTAも巻き込んで一緒にやっていくと、とてもいいかなと。私が思うのは学校というのは生徒だけではなく、家庭やその周りにいろいろな情報を発信していく、いい場所なんです。子どもを通じて、家庭や周りの方に地域の良さを知ってもらい、そして子どもと一緒に行事や保存活動に取り組んでもらう。こういうことがきっと文化財保護とか活用の輪を広げていくのではないかと思います。そして、小中高だけではなく大学生も地域の祭りや保存活動に取り入れてくれると、学生もすごく楽しんでやってくれるという気がします。

○広瀬知事 APUの留学生も喜んでやると思います。

昨日OPAMの5周年記念のシンポジウムがあったんですが、井上特別顧問が教育と美術館が繋がっていて、これが全国的に珍しく非常によいことだと言っていました。

○林委員 OPAMの影響は大きいですね。知事の言った教育でいうと、例えば津久見で岩石を使っていろんな色を作っている。これは津久見だけじゃなく姫島でもやっていて、そういったことが、子どもたちが新しい価値を見つけることに繋がっていると思います。OPAMはすごく影響があって、教育と融合してきているなど感じています。

○広瀬知事 鈴木委員のおっしゃるように、当たり前だと思っているが実はすばらしい文化や文化財を持っています。そういったものをPRも大事にしながら、教育の場でも継承してもらいたい。今計画策定中ということなので、今日の意見を是非取り入れてもらいたい。

(2) 先端技術に関する教育について

○社会教育課長 (資料に沿って説明)

○高校教育課長 (資料に沿って説明)

○広瀬知事 大分県には科学博物館が無いとよく言われます。科学博物館を作っても大事なことは、そこで子どもたちに関心を持ってもらうように説明する人あるいは子どもたちの前で実験をやってくれる人で、それがなければただの陳列に終わってしまいます。私はただの科学博物館よりも生きた科学博物館O-L a b oをやるべきだと思っています。おかげさまで立地も良く、地方で出張O-L a b oを行ったり非常に充実してきたなと思っています。

それからSTEAM教育。これも理論をいくら議論してもよく分からないので、実際に教育現場でやってみると、いろいろ皆の反応があると思います。

この2点について、ご意見をお願いします。

○林委員 理系の大学で研究室に20年ぐらいたのですが、その時STEAM教育があったら、また全然違った研究者になったと思います。どうしてかという、大分県でもそうですが、いろんな複雑な問題があって科学だけでは解決できないこともたくさんあります。社会学、哲学あるいは論理学とかいろんなものを融合して解決しようという場面がほとんどです。

そういう意味で、科学だけでは解決できないようなことを解決するには、どんな人材が必要かということをSTEAM教育の中で考えるべきだと思います。昔だと理系人間、文系人間を作っていくような風潮がありましたが、両方とも上手くできる人材を求めるのが今の社会の主流になりつつあるので、いち早くそれに対応できたらと思っています。

○広瀬知事 他県と比較して大分県のSTEAM教育のレベルはどうなんですか。

○高校教育課長 スーパーサイエンスハイスクールを中心に高等学校では、いわゆる科学人材の育成を行ってきましたが、重点校といって県全体で指定を受けて、そういう研究を行ってきたというのは、そう多くはありません。単独の学校だけでなく、学校と学校が繋がって一緒に子どもたちの人材育成を行っているという意味では、遅れは無いと自負しています。

○林委員 先程大分上野丘高校の科学部の話がありましたが、とてもたくさん特許を持っています。とても興味があったので、先生や生徒と話をし、この特許は実際の農業の現場に応用できるので一緒にやりませんかということで、実際に研究をしてもらいました。それを学会というか高校生の集まりで発表してくれたり、そういったことに取り組んでいます。まさにそれこそ生きたSTEAM教育じゃないかと思っています。

○鈴木委員 O-L a b oのハイスクールラボに小学校4年生の四男と参加しました。高校2年

生の生徒が先生役で非常に面白い科学実験をしてくれて、お話も上手でした。終わった後に彼に将来何になりたいか聞くと、中学校の理科の教員になりたいと言ってきて、こういう場があるということが非常にいいものだと感じました。

先端技術についてですが、今大分高専の先生や学生と一緒にロボット開発をしています。AIに画像を認識させるために、カメラで何万枚という写真をひたすら手で撮ってラベリングしたり、プログラムを設定通りに動かすために何回も何回もコツコツ挑戦するんですね。どんなに進んだ技術でもやっぱり最初は人間の力が必要で、原点はそこにあると思っています。

また、会議を行うと皆さんそれぞれ好き放題言うんですね、技術者なので。そうすると論点がまとまらないので、やはり論理的な考え方をきちんと自分の言葉で説明できるように、小さい頃から新聞を読んだり読書の必要性もあるなと思いましたし、人の意見を否定しないコミュニケーション能力を子どもの時から身に付けておく必要があります。

小学生、中学生の頃からきちっと数学だけやっていたらいい、理科だけやっていたらいいとかではなく、総合的に勉強していかないと。

○広瀬知事 皆がSTEAM的な思考になれば話がまとまると。

○鈴木委員 そう思いました。

○岩武委員 STEAM教育で、科学技術に優れた尖った人材を育成するという視点と、STEAM教育ならではの視点を持った、もっと広い意味での人材を育てるという二つあると思っています。

学校教育というのは、学ぶことによって人を成長させるためのものなので、幼い時からの基礎基本の勉強とともに、感性とか情緒を育てていくこともすごく大切だと思います。

明豊高校には看護科があり、戴帽式の時にいつもナイチンゲールの話をしてもらいます。彼女はクリミアの天使と言われ、野戦病院で働いた際に死亡率を非常に下げました。これは献身的な努力によるものですが、もう一つ大きな視点がありました。彼女は統計学者でもあり、野戦病院で傷そのものによって亡くなる人と、劣悪な衛生状態による感染症で亡くなる人を統計的に整理しました。コウモリグラフという円を12等分して月毎にどういった原因でなくなったかを整理していくものです。傷がひどくどうしようもない原因で亡くなった人、しかし何かを改善すれば治る可能性があった人、それを色分けしながらグラフで統計的に整理して、それを元に当時の議会に野戦病院の改善を求めたわけです。そして予算が付いたことにより、野戦病院の死亡率は40数パーセントあったものが、2～3パーセントまで下がりました。

彼女は統計学を学んでいたのですが、原因は何かを考え、解決に粘り強く取り組んだのは、彼女の感性であり情熱の結果だと思います。今後のSTEAM教育ってそういうことじゃないかと思っていて、その技術と共に感性であるとか粘り強さ、情熱、人に対する愛とかですね。そういうものがあって初めてこのSTEAM教育というのは生きてくるので、そこを目指してやっていければ大変良い教育ができるのではないのでしょうか。

○高橋委員 私はO-L a b oができた時にすごく感動しました。O-L a b oに興味を持った子どもたちの中から科学の道に進んで、研究者になる人が出てくると思います。やはりその取っかかりになるものが教育の現場からできたというのは、すごく良いことだと思います。

○岩崎委員 今までの学校の授業では、答えが1つなんです。でも世の中必ずしもそうではありません。研究する中でも、その過程でいろんなことが起こりうる。そこでどういう答えを出すか、答えの持って行き方についてもある種の感性が要求されます。その時にまさにSTE

AM教育の考え方が一番大事になってくるんじゃないかと私は考えています。

○林委員 大分には三浦梅園という研究者がいました。彼は哲学者ですが理論物理学者でもありました。昭和40年代に湯川秀樹博士が何度も彼の旧邸を訪ね文献を調べて、いろいろな文書を残しています。今の理論物理学者それから宇宙の研究を行っている人の根底には、三浦梅園が国東で考えた思想の流れが残っているんじゃないかと思っています。せっかく国東にスペースポートができるのであれば、地元でこういう研究者がいたんだっていうことを伝えていくことも大事だと思っています。

○岩崎委員 磯崎新先生が三浦梅園を一生懸命研究していて、北九州の美術館では三浦梅園の条理図をモチーフにしてステンドグラスを造られている。いろんな方々がそういったものを参考に自分の考えを表現されていて、非常に素晴らしい。

○広瀬知事 日食を計算された方がいましたね。

○林委員 麻田剛立です。三浦梅園が理論家で麻田剛立が観測の専門家として、お互いに書簡をやり取りしたものが残されています。

○高橋委員 今度大分にスペースポートができるということなので、ぜひ麻田剛立と結びつけて頂きたい。大分が宇宙の拠点になって、子どもたちもすごく注目すると思います。我々教育委員としては、これをきっかけに子どもたちが興味を持って、そこから研究者が出てくるといった可能性を持たせてあげたい。

○岩崎委員 スペースポートは子どもたちに夢を与える素晴らしいアイデアだと思います。ぜひ地域の文化、あるいは先哲の方々を通じた町おこしを企画していただきたい。子どもたちは本当

に喜びます。

○広瀬知事 スペースポートは教育の世界にどう繋げていこうと考えていますか。

○工藤教育長 せっかく大分に良い機会が訪れたのでこれを最大限活用しない手はない。具体的なことも徐々に出始めていると思いますが、我々もアンテナを高くして、学校にどう落とし込んでいくかしっかりと考えて取り組んでいきたいと考えています。

society5.0で、シンギュラリティがいつ来るのかということが随分議論されています。そうすると、人間がやる世界はどこに残るんだというと、理論的な部分と創造的な部分をセットでものを考えて、新しいもの作り出していく力だと、(一社)STEAM-JAPANの方からいろいろ教えて頂きました。そのためには、教育というのはいろいろな形で裾野を広げる必要があります。STEAM教育とは何かというのは掴みきれていないが、いろいろなことをトライアンドエラーで前に進めていくと、そのこと自体が子どもたちへのアピールや刺激になってくると思います。

○林委員 産業教育フェアで日田三隈高校がファッションショーを行い、とても素晴らしかったです。そしてそこにSDGsを取り入れていて、問題解決するためのファッションとはどういうものかとかですね。見ていて楽しかったですし、社会的なメッセージが詰まっているなという感じでした。高校生もいろいろなことを考えているんだなということを、ファッションショー1つ通じても感じましたし、多分彼らはいろいろなことにメッセージを含めていると思います。私たちが気づいていないだけかもしれませんが。

○広瀬知事 O-L a b oについては、今大変ニーズは高い。非常に嬉しいことだが、どうも大

分市内でも地方でもニーズに応えきれていないという声がある。そこはどうなっていますか。

○社会教育課長 コロナの影響で前半は定員を半分にしていたましたが、今は元に戻しています。

STEAM教育をO-L a b oでも活かしていこうと、県下15校の高校生が理科の授業や部活動の学びを子どもたちに教えています。今年の中津、日田、佐伯で教室を新たに展開していますし、来年度は国東、竹田、臼杵方面に広げていきたいと計画しています。

○広瀬知事 せっかくの機会ですから、他にご意見はありませんか。

○岩崎委員 児童生徒のために教育委員会、現場の方々が一生懸命頑張ってくれています。教育委員としても方向性だけは間違えないようにと考えてきた。ただ、少し右に振りすぎた振り子を県教委もある程度裁量を働かせて現場に合わせた対応をしてもいい時代に入ったんじゃないかと私自身は思っています。ただ、平成20年の事件をどんなふうに総括して、そこまですべて戻していいのかは議論して。

義務教育の先生方の希望者が少し減ってきますので、それにどう対応するべきか。今選考は極めて機械的にやっていますが、果たしてそれで十分なのか今度はそれを考えないといけないと思います。

○広瀬知事 是非それはお願いします。

これまでは平成20年の問題を、むしろいい意味で改革に活かしてきた。

本日は貴重な意見を頂きましたので、しっかりと受け止めて参りたいと思います。

ありがとうございました。